



多度津町「ゼロカーボンシティ」宣言

近年世界各地において、地球温暖化の影響による異常気象や自然災害が発生し、「気候危機」とも言われる深刻な状況となっています。

また、日本各地においても台風の大型化や集中豪雨などによる大規模自然災害の発生、野生生物の生息域の変化、高温障害による農産物の品質低下や収量減少といった悪影響が生じています。

このような状況を踏まえ、2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が、国際的に広く共有されました。また、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するために「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」と示されています。

日本においては2020年10月に菅内閣総理大臣による所信表明演説の中で2050年までに脱炭素社会の実現を目指すことが宣言され、また2021年5月の地球温暖化対策の推進に関する法律の改正によって「2050年までの脱炭素社会の実現」が基本理念として明文化されました。

本町においても、地球温暖化対策を喫緊の課題であると捉え、本町が将来像として掲げる「ひと・暮らし・歴史が共生するまち たどつ」の実現に向けて、豊かな自然や特色のある産業・文化を未来の世代に引きついでいくため、町民や事業者の皆様と共に、2050年までに本町における二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」に挑戦することを宣言します。

令和4年3月2日

多度津町長 丸尾 幸雄